

## 質疑応答: 下方修正の理由について

### 2023年3月期 通期連結業績予想の修正



#### 連結業績予想修正について

■ 2023年3月期通期連結業績予想数値（2022年4月1日～2023年3月31日）

(単位：百万円)

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、2023年2月6日に公表いたしました「2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

	前回発表予想		今回修正予想		前回発表予想比	
	予想	百分比	予想	百分比	増減額	増減率
売上高	88,600	100.0%	91,000	100.0%	2,400	2.7%
営業利益	2,700	3.0%	2,200	2.4%	△500	△18.5
経常利益	2,700	3.0%	2,300	2.5%	△400	△14.8
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,800	2.0%	1,500	1.6%	△300	△16.7

Copyright © 2023 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

27

司会者：「下方修正について、その理由を教えてください」というご質問です。

清水：お伝えしたとおり、マイナスの要因が3つとプラスの要因が3つあります。大まかにお話ししますと、当初は自動車が挽回生産にはならなくても第4四半期からは正常化するだろうというシナリオでした。

これは我々が勝手に思い込んだのではなく、下期くらいから正常化に向かい、第4四半期は挽回生産に入るとというのが、この当時のおおまかな自動車メーカーの見方でした。しかし、半導体を中心に部品の調達思ったよりも困難であったことがおそらく一番大きな要因で、挽回生産には至っていません。

それに連動して、電子部品にもブレーキがかかっていることが主たる要因だと考えています。

## 質疑応答: 採用方針について

司会者：「外部環境が不透明ですが、採用効率が上がる中、引き続き積極的に採用を進める方針ですか？」というご質問です。

清水：確かに外部環境は不透明ではあるものの、お客さまからの人材のニーズは活発に出ています。ただし、ここで考えたいことが1つあります。

今すでに配属している方々の稼働を上げていくことのほうが、我々からすると非常にありがたいのです。そして、働く方々も適度に時間外をこなすことで収入が増えます。第4四半期以降は、そのようなことに軸足を置きながら考えていきたいと思っています。

それが、結果的に収益構造の改善につながります。また、これからは自動車に非常に偏重した増員を行うという考え方から、将来を見据えた取引先・分野に人を積極的に配属していくことを考えています。

これは、自動車系ほどマッチングが容易ではないことと話がつながっています。従前よりも一定程度長い研修期間を経て配属することになると考えていますので、在籍数の伸びは若干ブレーキがかかるようではありますが、その分しっかりと稼働が上がっていくことで、売上と収益の伸びで結果を示せるのではないかと考えています。

## 質疑応答:熊本研修センターの狙いについて

### エンジニア系人材サービスの成長に向けて



#### 【半導体分野】

##### 熊本研修センター開所について

半導体関連企業の人材不足に対応すべく、熊本県に研修センターを開所する計画を発表、2023年4月の開所を予定しております。

##### 中国地域半導体関連産業振興協議会への参画について

当社は、東北経済産業局の「東北半導体・エレクトロニクスデザイン研究会」に続き、中国地域半導体関連産業振興協議会に参画することとなりました。

URL: [https://www.nisso.co.jp/news/chuugokukeizaisangyoukyoku\\_1/](https://www.nisso.co.jp/news/chuugokukeizaisangyoukyoku_1/)

地域社会、半導体関連メーカー、当社研修センターとの連携を高め、高付加価値人材の育成を目指します。



#### 【エンジニア分野】

##### インターステラテクノロジズ株式会社とパートナーシップ協定締結

「誰もが宇宙に手が届く未来をつくる」というビジョンを掲げ、北海道広尾郡大樹町に本社をおくロケット開発ベンチャー企業、インターステラテクノロジズ株式会社と人材活用でのパートナーシップ協定を締結。2040年に100兆円を超えると予測される宇宙産業に貢献してまいります。



Copyright © 2023 NISSO CORPORATION All Rights Reserved

22

司会者：「熊本研修センターを4月に開所する狙いについて教えてください」というご質問です。

清水：熊本研修センターは、当社の研修施設であるテクニカルセンター東日本が先行モデルになっています。そこで蓄えたノウハウを活用していく計画です。「これから九州エリアで量産技術を確立する時にキーになる人材を育成しよう」という目的です。ここでの研修は取引先としっかり話しながら、カリキュラムについても相談して進めています。

この研修施設の育成能力を上げることにより、熊本を中心としたこのエリアの量産技術に必要な人材の育成の基盤作りを、我々が先行で示していくことにもつながっていると考えます。

## 質疑応答:自動車の挽回生産を含めた正常化について

司会者：「自動車の挽回生産を含めた正常化は、来期に関しても難しいという考えでしょうか？」というご質問です。

清水：我々の努力だけでは難しいお話です。パワー半導体も含めた自動車向けの半導体が、今どの水準になっているかが一番わからないところです。

調達がうまくできることで、自動車は挽回生産に向かうと考えています。なぜなら、日本の自動車メーカー各社はバックオーダーを相当数抱えており、納期を短くして納めていきたいからです。

状況を踏まえて挽回生産に向かいたいものの、必要な部品が調達できるか否かに大きく影響を受けます。しかし、着々と手は打ってきており、国内の自動車向けの半導体を作っている会社も増産してくださっていますので、少しずつ改善していくと思います。

## 質疑応答:電子デバイスの回復について

司会者：「電子デバイスの回復は、いつくらいと見えていますか？」というご質問です。

清水：これは私の考えというよりもお客さまの話をトータルで考えますと、特に半導体のメモリについては、当初は6月くらいから回復すると考えていましたが、3ヶ月ほど後ろにずれ込んだのではないかと見えています。ですので、来年9月、10月以降の回復の妥当性が非常に高いのではないかと思います。

ただし、どちらにしても5Gのインフラ整備が遅れているなどいろいろなことがあります。テクノロジーは着々と進化を遂げていますので、メモリにおいても半導体はこれから不足してくるという見方でよいと思います。中長期で見ると、トレンドとしては右肩上がりで推移するのではないかと考えています。